

第2回 周南市観光ビジョン策定委員会 議事録

日 時：令和6年10月21日（月）10：00～11：45

場 所：周南市役所 シビックプラットホーム 交流室6

出席委員：朝水 宗彦 委員 難波 利光 委員 山田 みゆき 委員 小野 拓二 委員
岡崎 麻衣 委員 宮崎 真紀子 委員 竹永 富夫 委員 有田 由貴 委員
勝屋 幸代 委員 有山 篤志 氏（組谷 明豊 委員代理）

欠席委員：組谷 明豊 委員（有山 篤志 氏が代理出席）

意見提出：井上 康 アドバイザー

事務局：文化スポーツ観光部観光振興課 計5名

傍聴者：なし

■会長のあいさつ

朝水 宗彦教授による挨拶

【議事】

議事進行 朝水会長

議題1. 周南市の観光における強み・弱み・機会・脅威の整理について

（事務局より説明）＜資料「周南市の強み・弱み・機会・脅威の整理（SWOT分析）」＞

○委員からのご意見等

【会長】

「弱み」に「空港からのアクセスが悪い」とある。

市在住者は宇部空港と岩国空港のどちらの使用頻度が高いか。

【事務局】

沖縄便は岩国空港のみ。

東京便に搭乗する場合は、時間の都合により使い分けているものと思われる。

議題2. 周南市の観光が目指す姿と施策展開の素案について

（事務局より説明）＜資料「第4期周南市観光ビジョン施策展開（素案）」＞

第3章 周南市の観光が目指す姿の施策展開

3-1 観光ビジョンで目指す姿

3-2 基本方針と目標

3-3 基本施策の展開について

○委員からのご意見等

【委員】

「3-2 基本方針と目標」について。

「各種コンベンション参加者数」の目標値を85,000人、「国際交流事業参加者数」の目標値を1,250人としているが、これらは「観光客数」の目標値150万人に含まれるものか。

【事務局】

「各種コンベンション参加者数」は県観光動態調査に基づく数値であり、「観光客数」に含まれるものである。

【委員】

「観光客数」の目標値を150万人とした根拠は。

【事務局】

目標値は現行の第3期ビジョン策定時に倣い、改訂前の最終年度、つまり今年度の着地見込みに県観光動態調査の対象施設及び対象イベントにおける観光客の増加見込み等を積み上げ算出したもの。

令和7年度から9年度にかけて実施される、JRと県の連携事業「デスティネーションキャンペーン」による効果も想定している。

これは、令和8年度までを計画期間とした、県「新たな観光県やまぐち創造プラン」の目標値や、県観光動態調査における本市の観光客数の割合等と整合性を損なわない数値である。

【委員】

目標値150万人に徳山駅前図書館に訪れた観光客数は含まれているか。

【事務局】

第3期観光ビジョンの目標値には徳山駅前図書館を含めていない。

今後の取扱いについては、観光スポットの選定要件や観光客のカウント方法と併せ、慎重に精査する必要がある。

【委員】

徳山駅前図書館における観光客数は、施設のゲートの通過者数をベースに算出したもの。

【委員】

「3-3 基本施策の展開について」について。

イベントへの集客を柱としたいのか、観光交流拠点施設整備を予定している鹿野や湯野、あるいは周南工場夜景といった観光地を押し出したいのか、スポーツ等のコンベンションに力を入れていきたいのか、市が目指す方向が分かりづらい。
より具体的に示していただければ。

【委員】

「3-3 基本施策の展開について」のうち「基本施策2 夜型観光の推進」について。宿泊につながる仕掛けとして夜型観光を推進するのならば、午前中の滞在時間を延ばせるよう、朝市や朝食などと絡めた朝型観光を展開してはどうか。

【事務局】

地域で小規模開催されている朝市等が観光誘客に繋がる可能性もあり、着目していなかった新たな視点。

事務局側で整理したうえで、第4期観光ビジョンへの盛り込み方を研究する。

【委員】

「3-3 基本施策の展開について」のうち「基本施策3 魅力ある持続可能な観光地づくり」について。

最初の項目を「徳山動物園との連携」としている。

これは、最も訪れて欲しい観光地という位置づけとしてでなく、付加価値を高めるべき施設という視点からプライオリティが設定されたという認識でよいか。

【事務局】

リニューアルが進む動物園については、インバウンド需要もあるということから、案内看板の外国語表記等受け入れ態勢の整備も含め、しっかりと魅力を発信しながら集客力を一層高めていきたい。

【委員】

広島に訪れている海外旅行客を本市に誘客するにあたって、最も有効と捉えている素材は何か。

「基本施策3」に掲げた「徳山動物園」、「道の駅ソレーネ周南」、「JR徳山駅周辺」がインバウンドに刺さると考えているか。

【事務局】

現時点では明示していないが、回天記念館は広島平和記念資料館に訪れる海外旅行客層に対しても高い訴求力があると捉えている。

誘客にあたっては、新幹線停車駅であり、フェリー乗り場が近いJR徳山駅の強みを活かしつつ、大津島内及び周辺環境の整備を含め、誘客を図ることが優先課題であると考えている。

【委員】

「周南観光コンベンション協会との連携」といった表現が多く見受けられるが、インバウンドへの対応及び観光ボランティアガイドの確保は特に難しいものと認識している。

ボランティアガイドは高齢化しており、多言語に対応できるガイドは募集から育成まで見通しを立てることが困難と考えている。

【会長】

例えば学生がガイドをする場合、たどたどしく原稿を読む様が却って良い印象を与えることもある。金銭が発生する雇用関係となるとそうはいかない。

歴史教育の一環として、学校と連携して取り組むのもひとつの手段ではないか。

インバウンドでは、異文化を体験できる場として学校が対象となるケースも見受けられる。

【委員】

山口市が、ニューヨークタイムズ紙「2024年に行くべき52カ所」の3番目に選ばれて、しばらく経つ。

周南市への影響はどうか。

【事務局】

目に見えて増加している訳ではないが、例えば回天記念館を訪れる外国人客もいると聞いており、分析に向けてアンケート等の実施を検討しているところ。

なお、観光客のみならず、先述の徳山動物園も含めて在留外国人への配慮も必要と感じている。

【委員】

多くの施策を掲げているが、網羅するには莫大なコストがかかる。

こうした施策よりも、観光客数が激減している「歴史・文化施設」について要因を検証し、回復を図ることが最優先ではないか。

【アドバイザー】

県全体への影響としては、ニューヨークタイムズ紙による効果を期待したもの、観光客数の伸びは全国と比較して非常に鈍い。

湯田温泉では欧米の旅行客が140%増となったが、もともと母数が少なく参考にできない。

福岡へは釜山便が1日30便運航して多くの韓国人観光客が訪れ、また広島では欧米豪からのインバウンドが伸びているにも関わらず、本県では誘致に大変苦戦している。

そうした状況に加えて、担い手不足や予算措置が問題となる中、周南市でインバウンドに取り組むべきなのか、情報発信等にヒト・モノ・カネを投下するべきなのか。

総花的なビジョンでなく、やることとやらないことを絞っていく必要がある。

観光ボランティアガイドについても、物価高の煽りから、定年退職者をはじめとする高齢者が労働市場に流れ、県全体でも不足している状況である。

【委員】

行政は全てを包含した計画を策定するものと承知している。

そうした中で優先順位の高い施策を「重点施策」とするなど、濃淡をつけるということ。一方で、自治体が観光施策を立案する必要があるのかということがテーマとしてある。

総じて、観光事業にかかる予算配分は小規模であることから、物質的に資源を強化するというより、観光人材の発掘や育成など、支援に重きを置いた姿勢を見せるのがこれからの観光施策ではないか。

もはや観光資源を羅列するフェーズではない。

【委員】

魅力発信について、今後はAIの活用も考えられる。

情報を細かに発信する視点を加えてはどうか。

【委員】

ツアー商品の利用以外で、周南工場夜景を求めて訪れる観光客はどれくらいいるのか。
10年以上取り組む中で環境整備の状況や観光客数が分かれば。

【事務局】

全国工場夜景都市協議会としての取り組みでは、令和3年度に一部オンラインを交えて、本市で工場夜景サミットを開催した。

今年9月には、日本最大の観光展示会「ツーリズムEXPOジャパン」への出展を通じて、観光関連事業者との商談会や一般来場者へのPRを図り、地道ながら誘客につなげる取り組みを進めている。

市独自の動きとしては、昨年度、旅行会社による工場夜景バスツアーを複数回催行し職員がガイドを務めた。

とはいえ、未だ認知度は低く、今後は旅行会社に対して、飲食等のコンテンツと一体的にPRを図る必要がある。

周南工場夜景の観賞に訪れた観光客数を捕捉するのは困難だが、SNSでの投稿等を目安のひとつに出来るのではないかと。

【委員】

周南工場夜景を楽しむ層について属性や反応はどうか。

【委員】

工場夜景クルーズでは、生活にゆとりのある50～60代の夫婦の利用が多く見受けられる。去年は中国、フランスから利用があり、来月にはポルトガルからの予約を受け付け済みである。航行は遊漁船ではあるが、クルーズという響きによるものか、いずれも男女2人組での申し込み。

しかし、クルーズ後はレンタカーで宿泊先である県西部まで移動するケースが殆ど。

県内の観光客については、帰省もしくは関東からの利用が多く、写真撮影を目的に訪れる層も一部ある。

駅に設置した観光パンフレットをきっかけとして申し込まれるケースもある。

【会長】

クルーズ乗船時にお酒をサービスすれば移動をせず、宿泊にもつながりやすいのではないかと。

■まとめ

【朝水会長】

多くの意見出しの場となった。

周南工場夜景の利用者層など初めて耳にすること含め、現場の声を聞くことができた。

■次回の策定委員会について

日時：令和6年11月18日（月）10：00～12：00

場所：周南市役所 シビックプラットホーム 多目的室